

転勤1年目の孤独

「新しい職場の中では本当に孤独でした」と涙ながらに訴えていた転勤1年目の女性教員(仮にA先生と呼ぶ)が夏休み前に休職に入ってしまった。

教員の休職者に関して、とくに5月の連休明けあたりから新規採用教員の職場不適合と並んで問題となるのは、転勤1年目教員の休職者が激増することです。

例えば、前任校長との打ち合わせ不足等により、学年配置や校務分掌が不本意な形でスタートして休職に入るケース、今まで自分が行ってきた指導が、新しい学校では通用しなくなり休職に入るケース等々。とりわけ後者のケースについて

連載 心の悲鳴に耳を傾ける

は、年齢を問わず、どの学校現場でも起こりうる問題です。

転勤先での不安材料

転勤先においては、休職にまで至るような様々な不安材料が待ち構えています。①知らない地域に入り、②子どもや保護者の様子や実態についての情報も得られないまま、③人間関係が構築されていない職場に異動になるのです。

A先生に「どんな場面で孤独感を強く感じたのですか」と伺うと、例えば、子どもの指導に関して保護者からクレームを受けた際に、自分としては正しい指

導をしているつもりでも、一方では、この指導で本当に良いのかどうかを確かめるすべがないので不安で仕方がないと言います。

そんな時、同僚や管理職から「あなたの指導は間違っていないから」とバックアップしてくれるようなひととこと(働きかけ)があれば、A先生は休職にまで追いつめられることもなかったかもしれません。

互いに関心を持ちながら「チーム教員」の輪をつくる

らに同じ思いの仲間が3人いればもう大丈夫です。しかし、A先生の場合には職場のバックアップがなかったために、「独りで戦って燃え尽きてしまった」ので「このようなケースではどうな対処ができるか」と長かったのでしょうか。職場に、仕事の一部として、日々の雑談の力を生かして

環境を視野に入れながら、以下の2点について考えてみることにしましょう。まず、転勤して1学期くらいの間では、なかなか信頼できる同僚が見つからないのが一般的です。そんな時は、元の職場の同僚や、日常的に情報交換の機会を組み込むことです。「忙しい」という教員の訴えを聞いて会議をする時間も取れない」という教員の訴えを聞きませんが、医療現場では1人の患者に対して何人も看護師が関わり、絶えず情報交換を密にしながらチームで患者を支えています。「忙しいから」などは言い訳にもなりません。「雑

転機に訪れる心の悩み、葛藤に対処する

談」や「情報交換」を通して職場の関係作りをしていくのが教員を含めた対人専門職という仕事ではないでしょうか。日々の雑談の力を生かして